

BUSINESS HIGHLIGHT

Groundbreaking Ceremony
PT Mitsubishi Motors Krama Yudha Indonesia
New Vehicle Manufacturing Plant
GIIIC, 24 March 2015



インドネシアにおける自動車生産体制の再構築

機械グループ

■新工場の起工式の様子

2015年2月、三菱商事と三菱自動車は、インドネシアの現地パートナーであるPT Krama Yudhaとともに、自動車生産合弁会社PT Mitsubishi Motors Krama Yudha Indonesiaの設立およびジャカルタ市近郊の工業団地における完成車組立工場建設を発表しました。新工場は、2017年4月に操業を開始し、年間16万台の生産能力を有する予定で、従来から生産している小型商用車に加え、新たに開発する小型MPV(多目的車)や新型SUV(スポーツ多目的車)『パジェロスポーツ』などの乗用車

も生産する計画です。また、生産した車両の一部はASEAN各国にも輸出予定であり、タイに続くASEANの主要生産拠点として重要な役割を果たすこととなります。

世界第4位の人口を抱えるインドネシアは、経済成長とともに自動車の需要増加が期待される有望な市場です。三菱商事は、同国において過去45年にわたり、自動車の生産・販売・販売金融事業などの自動車関連事業を展開しており、今後も、これまで培ってきた経験を活かし、さらなる事業基盤の強化を目指します。

マンダレー国際空港の運営事業スタート

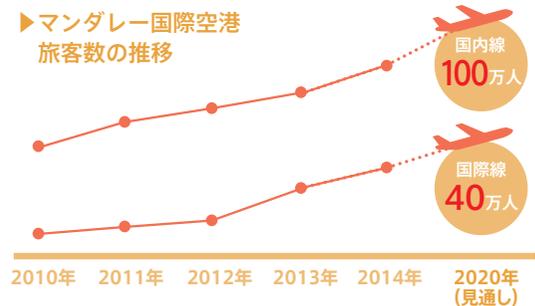
地球環境・インフラ事業グループ

2014年11月、JALUX、ミャンマー現地企業のYOMA DEVELOPMENT GROUP LIMITEDとともに、ミャンマー航空局との間でマンダレー国際空港の30年間にわたる事業権譲渡契約を締結。2015年4月より、3社合弁で設立した空港運営事業会社MC-Jalux Airport Services Co., Ltd.が、ターミナルビルや滑走路などの空港関連施設の補修改善、維持管理などの運営事業を行っています。また、本プロジェクトは、日本企業が海外において100%民間資本で取り組む初の空港事業民営化プロジェクトとなります。

同空港は、国内14都市、海外4都市を結ぶハブ空港であり、▶2010年以降の旅客数は、国内線で年間平均20%、国際線で同60%増加して

おり、2014年の旅客数は約90万人（国内線約65万人・国際線約25万人）となりました。また、2020年の旅客数は約140万人を見込んでいます。今後も、国内線・国際線の拡大を通じたさらなる旅客数の増加により、ミャンマーの経済発展に貢献するとともに、アジアを中心とする空港需要の増加に対応していきます。

▶マンダレー国際空港 旅客数の推移



■マンダレー国際空港
ミャンマーのハブ空港で、地方都市への交通手段の要。マンダレー市の南方約40km付近に位置する。



ミャンマーにおける食品関連事業強化へ

生活産業グループ

2015年3月、ミャンマーで食品・農業・小売・不動産開発など幅広い事業を展開するCapital Diamond Star Group (CDSG)の食品事業会社Lluvia Limited (ルビア社)の株式を最大30%取得することに合意しました。

ルビア社は、同国内で最大のシェアを持つ製粉事業や、PREMIERブランドで高い認知度を有するコーヒー事業を軸とした食品製造・販売事業を展開しています。三菱商事は、日本で確立し

た原料調達から小売までの「食の垂直統合モデル」のノウハウを提供することで、CDSGが構築した同事業の強化および新規事業の創出を目指します。

同国では、近年の民主化政策に伴い、さまざまな分野で規制緩和が進展しており、今後、CDSGの既存事業である農業関連事業（農産物の輸出・肥料事業）や小売事業などに参画する機会も模索していきます。

今後もCDSGとの協業を通じて、経済成長に伴う食品需要の増加や食の西洋化・多様化が見込まれる同国において、食品関連事業の発展、それに伴う雇用の創出や国民の食生活向上に貢献していきます。

▶ 食の垂直統合モデルとは

単一の企業・グループが、原料調達から小売までを一貫して行うビジネスモデルのこと。



■ PREMIERブランドのコーヒー



■ ルビア社の製粉工場

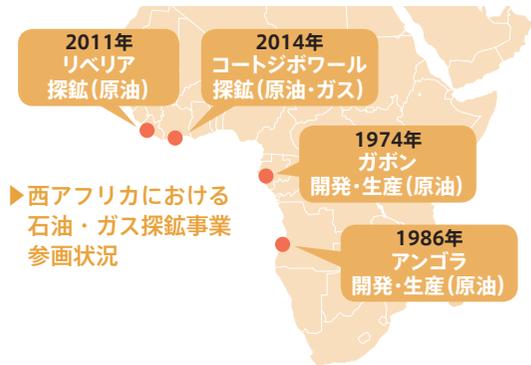
コートジボワールの石油・ガス探鉱事業へ参画

エネルギー事業グループ

2014年9月、コートジボワール共和国沖合の石油・ガス探鉱区権益を、米国のAnadarko Petroleum (アナダルコ社) から20%取得することで合意しました。同国における石油・ガス探鉱事業への参画は、日本企業として初となります。対象鉱区は、同国南岸から約50km沖合、水深2,000mの深海に位置しており、2012年の探鉱井掘削により既に石油・ガスの存在の可能性が確認されています。

深海域での高い探鉱・開発技術力を有するアナダルコ社とともに、▶長年蓄積してきたアフリカ西岸部での知見を活かし、本プロジェクトを推

進していきます。既存の探鉱開発事業と併せ、石油・天然ガス等のエネルギーの安定供給に貢献していきます。



マレーシア従業員退職積立基金向け 本邦物流不動産投資プログラム組成

新産業金融事業グループ

2015年2月、国内外の機関投資家向けに不動産私募ファンドの組成・運用事業を行うダイヤモンド・リアルティ・マネジメント(三菱商事100%出資、DREAM社)は、マレーシアの従業員退職積立基金向け本邦物流不動産投資プログラムを組成しました。DREAM社は、本プログラムに関するアセット・マネジメント業務および物件の取得・売却全般の運用業務を受託しています。今後も、総合商社として培ってきた収益不動産の知見を活かし、産業への資金供給と投資家への運用機会の提供を行っていきます。



■取得対象となった物流施設